

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

水害、猛暑に見舞われる日本列島

東京は梅雨明け後、強い日差し、うだるような暑さの連続、その一方で西日本では活発化した前線の影響で記録的な大雨が続き、土砂崩れ、河川の氾濫が相次ぎ甚大な被害が発生しました。さらに、日本列島は各地で記録的な暑さに見舞われ、気温は40℃を超え命に関わる危険な暑さも現れました。

活動拠点は梅雨明け後、まとまった雨が降らず、水路や田んぼは日増しに水位が下がり、水路の水が枯渇して3日後に田んぼの水は完全に干上がり、シュレーゲルアオガエルは生息場所を失ってしまいました。干上がる前の田んぼには、変態直後の幼体が稲につかまり、ぼっーとしている姿が見られましたが、その後は避難をして姿が見られません。

素掘りの池も干上がり、トウキョウサンショウウオやアカハライモリの幼生、ヤゴなどの姿が見えなくなりました。



干上がった田んぼ



シュレーゲルアオガエルの幼体

真夏の林内

連日、猛暑が続いても、林内の風は清々しい。白い大輪を咲かせた「ヤマユリ」はひと際目立ち、強い香りを漂わせています。その林内はセミの声が降るように聞こえ、ミンミンゼミやアブラゼミ、今年は早くもツクツクボウシが鳴きだしています。下草を踏み分けて進むと足元から突然セミが「ジジジシ・・・」と飛び出して、体当たりしてきます。

今年はキツネノカミソリが群生している場所で開花が少ない。湿地でも赤紫色の小さな花を穂のようにまとまって咲くミソハギの開花が少ないのは、雨不足や気候の変化が影響しているのでしょうか。



ヤマユリ



開花が少ないキツネノカミソリ

湿地や林内はイノシシが掘り起こした跡、オオタカがドバトを捕まえた捕食跡、干上がった沢でミヤマカラサゲハが吸水する様子、タヌキのため糞に止まっているアカボシゴマダラなどがみられます。

今年もオオムラサキは姿が見られません。カブトムシもオスが1頭、雌が2頭確認されたただけでした。